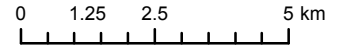
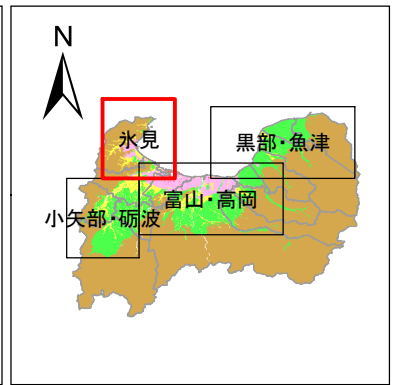
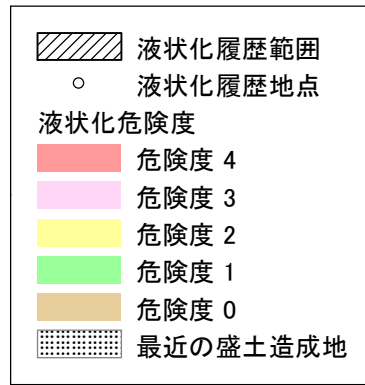


氷見地域

液状化しやすさマップ



本地域は主に標高500m以下の丘陵地性山地からなり、低地部は氷見市街地方向に集中するように流れる河川沿いの氾濫平野と、その下流の海岸平野で構成されています。また海岸平野の海側には砂丘が分布しています。

各河川上流の氾濫平野は、締め固まっていない砂層と粘土層からなり、液状化の可能性がある範囲と想定されます。また海岸平野は、砂丘の発達により日本海から切り離されて生じた水域(十二町潟)に河川からの堆積物が逐次埋積して形成された潟埋積性平野であり、軟弱な泥・泥炭を主体としていますが、締め固まっていない砂層を介在しているため液状化の可能性があるかと想定されます。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 25000(地図画像)及び数値地図 25000(土地条件)を使用しています(承認番号 平25情使 第80号)。またこの図面は、5万分の1土地分類基本調査(地形分類図)富山県発行(1970~2005)の一部を利用して作成しています。

液状化履歴は、「若松加寿江(2011)日本の液状化履歴マップ 745-2008(東京大学出版会)」によります。本マップには過去の液状化履歴が○印でプロットされていますが、原典(若松, 2011)では地震毎にシンボルが変えられており、また液状化が発生した地点の確実度によってもシンボルの大きさが変えられています。本マップではこれらを区別せずに同じ記号でプロットしています。

